

平成25（2013）年産水稻の作柄について

<目次>

平成25年産水稻の作況指数	1
平成25年産作柄の特徴	2
水稻の作柄に関する委員会の意見に対する検証	3

平成25年産水稻の作況指数

(都道府県別の作況指数)



平成25年産作柄の特徴

【北海道(作況指数105)】

- 田植期以降の好天で穂数は平年並みとなったものの、育苗期間が総じて低温・日照不足で経過したこと等により、1穂当たりもみ数がやや少なくなったため、全もみ数がやや少なくなった。
- 登熟は、出穂期以降、平年を上回る気温・日照で経過したことから平年を上回った。

【東北(103)】

- 田植期以降、一時的な低温や日照不足があったものの、総じておおむね天候に恵まれ、全もみ数がやや多くなった。
- 登熟は、出穂期以降、おおむね高温・多照で経過したことから平年並みないしやや良となった。

【北陸(102)、関東・東山(102)、東海(102)、近畿(102)】

- 田植期以降、総じておおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は北陸及び関東で平年並みないしやや多く、それ以外で平年並みとなった。
- 登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれたことから平年並みないしやや良となった。

【中国(99)、四国(100)、九州(97)】

- 6月に日照時間が少なかったものの、7月以降、総じておおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は中国及び四国でやや多く、九州で平年並みとなった。
- 登熟は、8月下旬から9月上旬の日照不足、トビイロウンカの被害等により平年を下回った。

水稻の作柄に関する委員会の意見に対する検証

「水稻の作柄に関する委員会（平成25年度第2回）の意見」の抜粋

2 次回の調査に当たって留意すべき事項

- (1) 出穂期以降が高温で推移している地域においては、登熟や品質への影響に留意する必要がある。特に、高温とともに用水不足となっている地域ではその影響が大きく出る懸念があるので留意する必要がある。
- (2) 7月中下旬に寡照・長雨となった東北においては、もみ数への影響を見極める必要がある。また、6月に寡照であった九州をはじめとする地域では、穂数・もみ数への影響を見極める必要がある。
- (3) 7月から9月初めにかけて大雨による冠水や倒伏が発生した地域では、その影響を見極める必要があるとともに、今後の台風及び集中豪雨による作柄への影響に留意する必要がある。
- (4) 穂いもち、斑点米カメムシ類等の病虫害の発生が多いと予想される地域においては、その発生状況に留意する必要がある。

1 出穂期以降の高温による登熟や品質への影響

		平均気温（℃）					千もみ当たり収量（g、％）					作況指数				1等米比率（％）			
		25年産	（参考）			25年産	（参考）			25年産	（参考）			25年産	（参考）				
			24	23	22		24	23	22		24	23	22		24	23	22		
			平年差	平年差			平年比	平年比											
宮 城	出穂後40日間	25.2	1.9	2.8	1.8	3.0	19.0	101	104	99	104	104	105	103	103	93	87	84	74
	出穂後20日間	26.9	2.7	1.7	1.5	2.9													
埼 玉	出穂後40日間	26.4	1.2	2.9	1.3	3.0	17.5	97	101	98	97	98	99	98	86	65	46	87	24
	出穂後20日間	28.2	1.7	2.5	△ 0.1	2.9													

		平均気温（℃）					千もみ当たり収量(g、%)					作況指数				1等米比率(%)			
		25年産	(参考)			25年産	(参考)			25年産	(参考)			25年産	(参考)				
			24	23	22		24	23	22		24	23	22		24	23	22		
																		平年差	平年差
富 山	出穂後40日間	26.6	0.6	2.2	0.7	3.1	20.3	102	104	101	98	102	100	103	101	71	77	85	66
	出穂後20日間	28.8	2.0	1.5	0.6	2.6													
三 重	出穂後40日間	29.0	1.6	0.8	0.5	1.8	18.3	102	101	95	101	103	101	98	100	39	55	49	26
	出穂後20日間	29.3	1.7	0.8	0.8	0.8													
滋 賀	出穂後40日間	27.2	0.6	1.6	1.2	2.5	17.7	100	102	99	101	102	102	99	100	60	82	68	40
	出穂後20日間	29.0	1.7	1.0	1.2	1.7													
島 根	出穂後40日間	26.7	0.6	1.6	0.7	3.0	18.8	97	103	98	97	101	102	101	95	58	66	60	49
	出穂後20日間	29.2	2.2	1.4	0.2	2.2													
福 岡	出穂後40日間	26.1	0.8	0.2	0.7	2.1	16.7	95	100	99	101	96	98	101	97	31	26	43	17
	出穂後20日間	26.3	△ 0.6	0.7	0.9	2.8													

注：1 掲載した県は、主な農業地域の中で、作付面積が大きく25年産の登熟期間の気温が地域内の他県よりも高かった県とした。

2 平均気温の算出に用いたアメダスデータは、各県の県庁所在地のアメダス地点の値である。また、出穂期の基点は県平均の出穂最盛期とした。

3 1等米比率は、生産局穀物課「米の農産物検査結果」における水稻うるち米の結果である。なお、掲載した値は、平成22年産から24年産が確定値、25年産が26年1月末現在である。また、値は公表値の小数点第1位を四捨五入して掲載した。

25年産の出穂期以降の気温は、登熟期間における平均気温でみると、平年に比べて1～2℃程度高い状況となった地域が多かった。また、白未熟粒の発生が増加されると言われる出穂後20日間の平均気温が27℃以上となった地域もみられた。

このような気温の状況は、近年でみると、品質低下等が著しかった22年産ほどの高温ではなかったものの、23年産及び24年産よりは高温のところが多く、登熟（千もみ当たり収量）及び品質への影響がみられた地域もあった。

なお、上表において千もみ当たり収量が平年を下回っている埼玉県、島根県及び福岡県は、高温の他に、日照不足、病害虫等による被害が影響したものとみている。

2 7月中下旬に寡照・長雨となった東北におけるもみ数への影響

		6月	7月			8月	出穂 最盛期	1㎡当たり 有効穂数		1穂当たり もみ数		1㎡当たり 全もみ数	
		下旬	上旬	中旬	下旬	上旬		(本)	平年比	(粒)	平年比	(百粒)	平年比
		平年比	平年比	平年比	平年比	平年比							
青森	降水量	0	176	87	99	201	8月6日	411	99	83.0	105	341	103
	日照時間	114	83	139	48	89							
岩手	降水量	14	190	273	290	313	8月8日	420	98	69.5	105	292	102
	日照時間	135	55	73	31	111							
宮城	降水量	55	77	153	212	89	8月6日	427	98	69.3	105	296	103
	日照時間	154	88	81	12	105							
秋田	降水量	0	253	340	269	49	8月4日	417	96	74.3	102	310	97
	日照時間	170	62	122	33	92							
山形	降水量	16	181	254	305	77	8月7日	458	98	69.2	103	317	101
	日照時間	172	64	88	34	69							
福島	降水量	41	100	181	280	90	8月10日	399	102	76.9	102	307	105
	日照時間	121	61	82	36	81							

東北地域において特に7月中下旬が寡照・長雨であったものの、それによるもみ数全体への影響はあまり見られなかった。穂数はやや少なかったものの、1穂当たりもみ数は補償作用の働きにより多くなったことから、全もみ数はやや多くなった。

なお、秋田県については、7月前半が他地域より降水が多く寡照の度合いも大きかった影響で中干し効果が十分得られなかったこと等により穂数が確保できなかったと考えられ、全もみ数がやや少なくなった。

3 6月に寡照であった九州等の地域における穂数・もみ数への影響

		6月			7月			8月	田植最盛期 出穂最盛期	1㎡当たり 有効穂数 (本)		1穂当たり もみ数 (粒)		1㎡当たり 全もみ数 (百粒)	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬							
		平年比	平年比	平年比	平年比	平年比	平年比	平年比		平年比	平年比	平年比	平年比	平年比	平年比
愛知	日照時間	91	77	91	153	152	86	135	5月23日 8月16日	388	102	74.2	98	288	100
兵庫	日照時間	95	119	84	140	160	89	105	6月4日 8月12日	349	102	80.5	101	281	103
山口	日照時間	81	79	70	103	204	91	97	5月30日 8月8日	355	101	78.6	99	279	101
愛媛	日照時間	67	122	46	114	182	82	99	6月2日 8月12日	365	103	78.1	102	285	104
福岡	日照時間	78	66	40	112	178	94	118	6月16日 8月20日	377	100	78.0	100	294	101
佐賀	日照時間	70	67	36	92	173	83	91	6月19日 8月26日	401	98	74.3	100	298	99
長崎	日照時間	61	74	36	108	188	53	94	6月15日 8月25日	364	95	77.2	104	281	99
熊本	日照時間	55	101	22	109	195	76	103	6月13日 8月20日	385	100	77.1	101	297	101
大分	日照時間	56	83	13	112	185	104	112	6月13日 8月23日	376	102	78.5	98	295	100

東海以西において6月の日照が少ない傾向で、特に九州地域では6月月間の日照時間が平年の6割程度であった。このような日照不足により、6月中旬に田植最盛期を迎える九州地域では初期生育の抑制等がみられたものの、7月上中旬には日照が回復したこと等からもみ数がおおむね平年並みに確保されており、寡照によるもみ数全体への影響は少なかったとみている。

4 大雨等による冠水や倒伏が発生した地域での作柄への影響

災害名	主 都道府県	被害面積	被害量	災害名	主 都道府県	被害面積	被害量
7月18～19日及び22～23日の水害	山形	1,320	480	台風第18号	青森	758	216
7月26～27日の水害	宮城	221	305		岩手	637	909
7月28日の水害	島根	139	313		秋田	78	245
	山口	949	1,230		茨城	338	130
7月29日～8月1日の水害	新潟	866	196		群馬	844	513
	石川	159	142		新潟	13,900	961
8月5～6日の水害	福島	157	109		福井	180	275
8月9日の水害	岩手	1,400	2,480		滋賀	782	370
	秋田	1,170	1,660		京都	884	453
8月23～25日及び27～28日の水害	石川	610	126		兵庫	1,050	229
	島根	232	331				
8月31日～9月4日の水害	兵庫	4,940	292				
	徳島	520	190				
	香川	900	728				

データ:「農作物災害種類別被害統計」

注:主な都道府県は被害量が100t以上を記載した。

7月から収穫期にかけて発生した大雨等による被害については、上表のとおり全国的局地的に発生したものの、県全体の作柄への影響としてみた場合は、短期間の冠水や倒伏の発生が主で比較的軽微な被害が多かったとみている。また、台風第18号の影響についても収穫期に入っている地域が多く被害は多くなかった。なお、被害量の多かった山口県、岩手県及び秋田県での被害は、土砂流入による被害が多かったものである。

5 病害虫の発生が多いと予想された地域での作柄への影響

○病害虫発生予報第6号（平成25年8月15日発表）抜粋

- ・ 穂いもちの発生は、近畿の一部地域で「多い」、東北の一部地域で「多い」又は「やや多い」、甲信及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
- ・ トビイロウンカの発生は、南関東、中国及び九州の一部地域で「多い」、近畿及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

○病害虫発生予報第7号（平成25年9月19日発表）抜粋

- ・ トビイロウンカの発生は、近畿、四国及び九州の一部地域で「多い」、中国の一部地域で「多い」又は「やや多い」と予想されます。
- 本年は、九州地方を中心に3県から警報、14県から注意報（9月17日現在）が発表されており、発生が多い傾向です。

トビイロウンカによる被害面積及び被害量

	被害面積	被害量
	ha	t
兵 庫	4,940	1,350
岡 山	6,070	5,680
山 口	3,470	1,970
愛 媛	4,660	1,290
福 岡	10,200	6,560
佐 賀	12,000	8,150
長 崎	3,410	1,810
熊 本	10,600	5,210
大 分	13,700	6,490
宮 崎	8,650	2,970
鹿児島	13,800	4,630

データ:「農作物災害種類別被害統計」



25年産においては、近畿・中国・四国地域の一部及び九州地域の全域でトビイロウンカによる被害が大きく、作柄を低下させる大きな要因となった。

一方、いもち病、斑点米カメムシ類等その他の病害虫による被害は、一部の県でいもち病の被害が多いものの、全般的には大きな被害の発生には至らなかった。